

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会第 10 回会議録（概要版）

開催日時：2020 年 8 月 31 日（月） 14：00～16：00

場所：日本学術会議の WEB システム

参加者：片田、小松、井上、浅野、内布、多久和、田高、野嶋、菱沼、寶金、正木、山本、綿貫、西村（記録）

欠席者：岩崎、太田、川口、南、吉沢

（敬称略）

資料

- 1 【次第】第 24 期看護学分科会 第 10 回会議・分科会名簿
- 2-1 看護学分科会 第 9 回議事録（概要版）
- 2-2 看護学分科会 第 9 回議事録（詳細版）
- 3 24 期報告 様式 3（第二編：看護学分科会）
- 4 ANP 第二部査読結果
- 5 地元創成看護班議事録(08-08 簡略版)
- 6 提言「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進
- 7 提言「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」

【議題】

1. 第 24 期の活動の検討

片田委員長より：議事録（資料 2-1、2-2）の確認がなされ、With コロナの時代に突中したためそれを踏まえた検討の必要がある。各分科会が今期の活動を報告し、今後への引継ぎを検討するため、これまでの活動報告が求められている。

小松副委員長より：今期の健康・生活科学委員会全体の活動として、看護学分科会も関与してマスタープラン（2020）（計画タイトル「Society 5.0 の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」）を提出し、学術大型研究（146 件）に採択されてヒアリングに臨んだが重点大型研究計画（31 件）には採択されなかったこと、文部科学省のロードマップ（2020）にも提出できたが、採択されずヒアリングには至らなかったことが報告された。マスタープラン（2020）については、日本看護系学会協議会（JANA）での説明会を 2 回行い、日本看護科学学会（JANS）の会期中に、JANA、JANS との合同シンポジウムを開催した。

提言について、地元創成看護班の提言は、9 月 2 日に発出予定である。高度実践看護班の提言は、他委員会にも意見をもらった方が良いというコメントがあり、発出には繋がらなかった。

（1）高度実践看護班

井上委員より第二部審査結果（資料 4）をもとに、採択に至らなかったことの報告があった。高度実践看護については、既に 3 回目の提言となり、内容も医療制度システムに踏み込んだものであったため、看護分科会のみではなく、他委員会との検討も必要であるとの指摘を受け、仕切り直しが必要となった。

今後、第一部の委員にも分科会メンバーに入ってもらい、検討を重ねていくこと、シンポジウムを開催して、APN の実際の活動を紹介して実績を作り、土台を作って提言を出していく必要があることが検討された。

（２） 地元創成看護班

議事録（資料 5、6）をもとに、綿貫委員より報告があった。提言については、幹事会からのコメントに対して修正した点が紹介された。今後、本提言をどのように浸透・普及させ、医療現場でどのように活用するかが課題である。カリキュラム改定とも重なる時期にあるので、各大学のカリキュラムにおいて、それぞれの地元の視点をしっかり持つことを強調したい。

2. 次期に向けた課題の検討

片田委員長より、発出した提言については、活用等について更に議論を進め、APN はストラテジーを立てて継続することについて発言があった。加えて、マスタープラン（2020）によって、社会の動きを先取りしながら、研究の組織体制である諸学会を超えた繋がりを作っていく必要がある。

小松副委員長より、第二部に新たに設置された「大規模感染症予防・制圧体制検討分科会」は、提言を二つ発出することが報告された。看護学分科会においても、大規模感染症に対する提言を出していく必要があることを指摘されている。

3. コロナウイルス感染症への対応について

片田委員長より、看護学分科会からは感染症に関する提言を発出していないことの指摘がなされた。他の看護学の組織からは発出されているため、コロナが故の取り組みを検討し、三番目の提言を看護学から出していけないといけなかったことが提案された。

委員会では、新興感染症への対応、多様な大規模災害などの多様なリスクに対して、社会的な取り組みが求められていること、教育等の課題に対して、看護学分科会の立場や取り組み課題が検討された。教育では、特に、実習科目をもつ多学術分野との共同と情報発信の必要が検討された。

以上